

1 学校づくりビジョンの重点への取組の評価

基盤 教職員の資質・能力の向上		4・③・2・1
方策	個人及び全体研修方式による授業研究・分掌チームによる実施計画立案・自己評価の実施	
指標1	教師力(自己研鑽に関わる自己評価)≥75%	73.4%
指標2	教師力(授業づくりに関わる自己評価)≥75%	71.8%
<p>本校でも、教員の世代交代が進み、若手教員の占める割合が年々増えてきていることから、昨年度よりOJTを意識した取り組みを行っている。本年度の全体授業研究では、先輩教員から若手教員への伝達を強く意識する機会を持つということで、道徳の授業実施に向けて各学年で教材研究や指導案検討を行い、事後検討会では授業改善のための意見交流を行った。また、今年度も全教員が個人研究授業を行い、教育アドバイザーの先生に日常の授業を参観してもらい、授業改善やスキルアップにつながる助言を受けることができた。</p> <p>成果として、指導案検討の過程を通じて、若手教員は先輩教員のスキルや知識を吸収する機会となり、経験者層の教員にとってもあらためて人材を自分たちで育てていくという意識が高まった。また若手教員以外の教員にとっても自分たちの授業に対する見直しをすることができた。授業研究以外にも、Q-U学習会、特別支援教育学習会、YES-net研修会などを実施し、三重大大学の教授や指導主事の先生方などの専門的な話を聞く機会を持つことができた。</p> <p>課題としては、OJTの機会をねらったほど持つことができなかったこと、主眼とする授業づくりのテーマにもっと深く切り込む必要があること、などがあげられる。また、本年度は、道徳での全体授業研究を行ったが、今後も継続して定期的実施していきたい。授業研究以外の学習会においても、本校の実状に即したのを見極め実施していきたい。</p>		

重点1 生きる力の向上		4・③・2・1
1 知(確かな学力)の向上		
① 授業満足度		
方策	一人ひとりの学びの保障の取組	
指標1	生徒アンケート問2(授業のわかりやすさ)≥80%	85%
② 学力(知識・活用)		
方策	授業における表現力と活用力を高める取組・組織的な学力底上げの取組・特別支援教育の充実	
指標2	CRT(2・3年生)得点率全国比≥102%	2年 111% 3年 102%
③ 読書冊数		
方策	図書室・学級図書の充実・学年通信での本の紹介・家庭への啓発	
指標3	年間読書冊数(生徒一人あたり)≥10	12月8日現在・・・13.8冊
指標4	生徒アンケート問6(本を読むのが好き)≥75%	73%
<p>昨年度に引き続き、今年度も全教員が個人研究授業を行い、教育アドバイザーより助言を受けることができた。また、全体授業研究では、道徳の授業実施に向けて各学年で教材研究や指導案検討を行い、事後検討会では授業改善のための意見交流を行った。また、基礎基本の定着をはかるために全校で「富中タイム」の取り組みを続けている。</p> <p>指標1については、生徒主体の授業づくりを進めてきた成果であろうと思われる。しかし、目標数値は達成したが、昨年度より下回る結果となった。</p> <p>指標2については、ほとんどの教科で全国平均を上回る結果となった。今後も、継続して各教科でCRTの結果を分析し、課題に対する手だてを考え、授業改善につなげていきたい。</p> <p>指標4については、学年を追うごとに、割合が減少する傾向にある。目標を達成することができなかったが、昨年より12%上がった。『朝の読書』の習慣から休み時間、昼食後など少しの時間を利用して読書に励む生徒の姿も見られる。ブックトークも3年目になり、各クラス・各学期に1回ずつ行うことができた。しかし学活での図書館利用は実施がむずかしく、全学年で実施できなかった。今後は、各教科の特性を生かした読書に対する啓発活動をすすめていきたい。</p> <p>特別支援教育においては、特別支援学級の英語の授業において、教材を工夫することにより、生徒が英語に慣れ親しみ、授業以外でも英語を使う場面が見られた。</p>		

2 徳(豊かな人間性)の向上		
① 規範意識		
方策	生活規律の指導・学習マナーの指導	
指標1	生徒アンケート問8(学校の規則を守る)>=85%	89%
② 人権を尊重し行動する力		
方策	学級活動・道徳教育の充実・人権弁論大会を核とする人権教育の充実	
指標2	生徒アンケート問11(どんな理由があっても、いじめはいけないと思う)>=90%	91%
指標3	生徒アンケート問12(困っている人を助けようとする)>=80%	84%
③ 自己肯定感・自己有用感		
方策	職業体験学習・進路学習を核とするキャリア教育の充実・学校行事の充実	
指標4	生徒アンケート問13(自分によいところがある)>=70%	65%
<p>今年度、規範意識の高揚・学校生活環境の改善・生徒のアサーティブな言動の習得や自尊感情の高揚を目指して様々な取り組みを行ってきた。</p> <p>規範意識・環境改善については、全体として昨年よりきまりを守ろうとする意識の高まりは見られた。落ち着いた雰囲気のおかげで授業が進められており、よりよい学習環境が整えられていると言えよう。学習マナーについても、各学年ともに学習規律の指導がしっかりと進められ、教師も早めに授業に向かうなど、一丸となって改善に取り組んでいて、数値目標もクリアにつながっている。しかし、各学年で学校内外における生活の乱れや指導を要する言動が少なからず見受けられたのも事実であった。</p> <p>人権感覚については、各学年ともに着実に高まっていると思われる。本年度も人権フォーラムや校内発表会では、参加された方々から好評をいただいた。困っている人に一歩が踏み出そうとする生徒が昨年を5ポイント上回ったことは、この1年間の様々な取り組みの成果と言えよう。ただ、より高い数値を目指すべきカテゴリーであり、アサーティブな言動による関わり方がまだまだ不十分であるため、より積極的に働きかける力を身につけさせるための具体的な取り組みが必要と考える。</p> <p>自尊感情においては、依然として数値目標をクリアするには到っていない。学校行事を通して生徒が達成感を味わい、存在感を高めることができているようには思う。しかし、ふだんから自分が周りから大切にされていると実感できる体験が乏しい生徒が多いのも事実である。学校全体を落ち着かせることで、誰にとっても安心して活動できる場を増やすことが、自己肯定感の向上には必要であると考えます。</p>		
3 体(健康な心と体)の向上		
① 心の安定と体力		
方策	保健体育の授業の充実・スクールカウンセラーとの連携・心の安定のための情報発信	
指標1	新体力テスト得点偏差値>=50(女子)・50(男子)	47.3(女子) 46.2(男子)
指標2	出席率>=97%	97.7%
② 健康な生活習慣		
方策	健康に関する啓発活動・生活リズム向上推進	
指標3	生徒アンケート問14(朝食を毎日とっている)>=90%	86%
指標4	遅刻率<1.5%	1.1%
<p>昨年度の新体力テスト得点偏差値と比べ、大きく低下したしたが、新一年生男子・女子の体力の低さが大きな要因である。小学校での運動機会の少ない生徒が目立った。また、学年が上がるにつれ、運動への意欲が低下する生徒が見られるようになり、歯止めをかける必要がある。そこで、昨年度より取り入れた体育の授業前のランニングも周回数を増やし、全生徒の体力の向上を図っている。男女とも、3年生は48台と良好だが、1、2年生は大きな課題を残すこととなった。</p> <p>出席率、遅刻率については、ともに目標値を達成した。不登校生徒を始め、欠席や遅刻をする生徒が固定化しているが、対象生徒も継続して休むことが減った。これまでの時間を守る指導、生活リズムを作る指導が定着してきたといえる。ただし、アンケートには表れないが、精神面の弱さに課題を持つ生徒も見られる。SC、そしてYESnetなど外部機関とも連携を密にして、対応している。</p> <p>今年度は学校栄養職員との連携した調理実習・食育講座を全学年で企画した。朝食を毎日とる生徒の割合はアンケート上は減少したものの、保健委員会の調査では92%となっており、昨年度なみの結果となったといえる。各家庭事情の問題などもあるが、今後も食育講座を継続するなど生徒、家庭への啓発活動を続ける必要がある。</p>		

重点2 開かれた学校		4・③・2・1
1 教育活動の公開		
方策	授業公開週間の実施・行事等の公開・通信の発行・お知らせボードの更新	
指標1	保護者質問紙問11(教育活動の公開)≧80%	88%
指標2	年間ホームページアクセス件数≧50000件	33110件(12/25時点)
2 家庭・地域との連携		
方策	学習習慣の確立・授業への学習支援ボランティアの参画・読書習慣の確立・健康な生活習慣の確立	
指標3	保護者質問紙問12(地域・保護者との連携)≧80%	86%
<p>指標1の保護者質問紙調査11「学校は、授業や行事等の公開、懇談会の実施、通信や学校ホームページなどによって、十分に教育活動の公開を行っていると思いますか。」について肯定意見が88%と例年と同様のレベルで推移している。指標2のホームページアクセス件数は12月25日現在33110件で昨年よりは若干低くなっている。トップページや各学年の更新は、職員全員が協力し合い週1回程度の更新を維持している。指標3の質問紙調査12「学校は、地域や保護者から意見を聞き、連携して教育活動に取り組んでいると思いますか。」について肯定意見が86%で満足できる評価を得られている。</p> <p>授業公開を1,2学期に実施した。行事等の公開を行いたくさんの保護者に参観していただいた。体育祭のPTAテントは今年も最後まで満席が続いていた。文化祭は、平日開催にもかかわらず昨年同様200余名の参観者数であった。学校公開日については日程調整の都合1学期が土曜日の1日開催であったが参観者は149名(参観者名簿記名者数)と、昨年より20%強増加した。休日開催にする効果は大きいと思われる。2学期の学校公開日は10月29日から4日間の平日公開をおこなったが20人であった。</p> <p>富田浜通信(学校通信)・学年便り・各担当からの通信などを発行した。各種通信の発行数の増加を期待する意見をいただいた。これからの課題としていきたい。お知らせボードについては、学校学年については迅速かつタイムリーな更新をめざした。</p> <p>学校評価の実施と公表、質問紙調査における保護者からのご意見、ご質問、ご要望とそれらに対する回答の公表など、学校運営にかかわる情報の共有に努めた。PTA、地域、学校教育支援ボランティアなどの連携は順調に進んでいる。学校花壇の栽培ボランティアの方、図書ボランティアの方には継続して支援をいただいている。また、音楽の授業に富田地域を含めての箏(こと)の演奏者の方に3日間のべ20名協力いただいた。職業体験学習においては、地域の多くの事業所の協力を得ることができた。</p> <p>本年度も富田地区防災訓練に生徒を参加させることができた。地域の方々からも、災害時における中学生の活躍につながると評価をいただいた。プラスバンドは富田地区運動会、とみだ楽市、富田小学校等への出張演奏で地域行事に積極的に参加することができた。学校長もできる限り地域行事に参加して地域との連携に努めている。</p>		

重点3 安全・安心な学習環境		4・③・2・1
1 危機管理体制の強化		
方策	各種危機管理マニュアルの整備と徹底・対応後のフィードバック	
指標1	教職員アンケート(危機管理体制)≧80%	88%
2 施設設備の保守点検の徹底		
方策	整理整頓・安全点検の日常化	
指標2	教職員アンケート(施設設備)≧65%	76%
3 安全意識		
方策	避難訓練の実施・防災教室の実施・非行防止教室の実施・交通安全指導	
指標3	避難(整列・点呼)完了までの所要時間=<地震・津波4分30秒、火災3分30秒	地震・津波4分54秒、火災5分31秒
指標4	けがの発生件数<年間40件	42件(11月30日現在)
指標5	不注意によるガラス破損件数<年間8件	4件
<p>避難訓練については指標3の所要時間をオーバーしてしまっていたが、地震の初期対応と津波対応の教室移動は落ち着いて行なうことができた。火災については小雨が降っていたため体育館への集合となり時間がかかったが、移動・点呼はスムーズに行われた。「おはし」の意識が徹底されており、目的意識をもって行動できている。</p> <p>地域の防災訓練に自主的に参加する生徒が見られ、生徒の防災意識の高まりが見られる。職員の危機管理意識も高くなってきており、さらに高めていきたい。津波想定訓練については被害後の対応を今後検討していく必要がある。また、例年同様に夏季研修の中でAED研修を職員全員で行った。</p> <p>ガラス破損については、ガラスは割れるものという認識の低い生徒がいるので、割れるもの、という啓発をしていく必要がある。</p> <p>日々の整頓については、改善は幾分されたものの、机上・ロッカーなど乱雑な部分はまだ見られた。</p> <p>第1学年での防災教室・交通安全教室、また、安全委員会と全職員による交通安全指導も毎月実施することができた。</p>		

2 改善方針

【評価指標を活用したよりよい学校評価計画の策定】

学校評価にかかる膨大な事務量を緩和するべく、評価計画の簡略化に努めた。一部の担当者に頼らず、学校評価の取り組みを職員全員のものとするため、評価の手順をよりシンプルに提示する必要がある。

生徒アンケート及び保護者質問紙調査については、意見・要望欄をひとつにまとめ、より集約しやすくした。グラフやコメントも簡略で分かりやすいものとなった。さらに工夫をすすめ、緊急性の高い意見への個別対応などもよりスムーズにおこなえるように意識を持って取り組む。

成果指標については、より実態を的確に表すものを工夫していきたい。生徒の状況に応じたレベル設定も大切である。

【基盤 教職員の資質・能力の向上 のために】

OJTをさらに充実させ、指導案検討などを多様な経験層のグループで検討する機会を増やしていく。また日常の授業の中で相互参観ができるような機会を積極的についたり、教科以外の授業づくりに若手教員が目を向けられるようにしていく。

年間計画において、教職員のニーズをリサーチして、より有用な学習の場とするように全体研修会を企画していく。

【重点1 生きる力の向上 のために】

・知(確かな学力)の向上について

よりわかりやすい授業をめざし、今後も校内研修を中心に授業改善を進めていく。また、指標を設定する際には、全国の数値を基準としてCRTの活用を継続し、一つの学年を毎年追跡するようにしていく。

各教科の特性を生かした、読書に関する啓発活動を行っていく。

・徳(豊かな人間性)の向上について

規範意識・環境改善については、教師側の意識や連携をより高めて、生徒一人ひとりの内面理解に努め、妥協のない根気強い継続指導を心がけていく。人権意識については、教師の日頃の言動を振り返り、各自の人権意識を再確認し、アサーティブな接し方を実践していく。そのうえで、生徒同士の関係をつぶさに観察し、人権侵害につながる言動を指摘・指導し、アサーティブな言動の習得を目指させる。

生徒の自尊感情については、次にあげるものを取り組んでいきたい。

①アンケートの問い方を「自分のことを周りの人に話すことができるようになったか。」というようなものに変更する。

②各学年ごとの数値を出して年毎に比較するという形に変える。

③「いいところさがし」をもらったあと、どう感じたかを意見交換する場を設ける。

④自分の長所をいくつ書けるかを学年ごと(例えば1年3つ、2年5つ、3年7つというように)に設定し、書けた数の割合を達成度として出す。

・体(健康な心と体)の向上について

現1、2年生の新体力テストの結果から、体育の授業前のランニングを継続していく。特に運動への意欲を示せない生徒への運動の意義、楽しさの啓発や、低体力生徒の運動能力の底上げを図っていく。また小学生の段階での体力の向上を図るため、学びの一体化を通じて小学校にも協力してもらうよう働きかけていく。

相談室を利用する生徒・保護者はまだ一部に限られるが、本年度は教職員がSCに相談することは増えた。これまでどおり、たよりなどを使っての働きかけを継続していくことに加え、教職員とSCのさらなる連携も必要であろう。

朝食や生活リズムの指導についても、学年単発の取組とせず、学校全体で、さらに小学校とも連携して取り組むことが大切だと感じる。

【重点2 開かれた学校 について】

学校公開週間については現行のまま継続するが、来年度、文化祭については、保護者が参加しやすいように土曜日開催に戻す。

各種の通信、学校ホームページのお知らせボードにおいて、生徒の学びの様子、学校の取り組み、保護者と連携して取り組みたいことなどについて、これまで以上に積極的に情報発信していく。特に、進路関係など保護者が必要とする情報が確実に伝わるように、通信等で発信していく。

地域ボランティアについては地域へ協力をお願いを継続していく。

【重点3 安全・安心な学習環境 について】

『危機管理マニュアル』をさらに本校の実状に即したものにしていける。また、『学校安全点検表』を定期的に活用し危険箇所の把握に努める。校内の危機管理体制の強化・施設設備の保守点検の徹底をはかる。机上等の整理整頓を常に心がけていくように全職員に呼びかける。ガラス破損に関しては、「丈夫なもの・割れない」という意識があるので「ガラスは割れる」という意識を生徒に持たせていきたい。大きな防災への意識は高まってきているがそのような盲点にも注意していきたい。